

---

# ホラー短編シリーズ(脳関連を除く)

脳好き人間

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ホラー短編シリーズ（脳関連を除く）

### 【Nコード】

N0926Z

### 【作者名】

脳好き人間

### 【あらすじ】

ホラーの短編集です。

僕はどうしても、ホラーを書くと思方面に向かってしまっているので、意地でも脳に無関係なのを書いてやる。と思った次第です。

## 墓

墓、墓って、怖いよね。だってさ、人の骨がたくさん収納されてるんだよ。

最近、若い女の人がさ、いつつも墓参りに来てるんだよね。それも夜遅く。

それでさ、面白いことに、墓に話しかけてんだよ。あははははは。超おもしろー。

墓に話しかけるって、マジで頭おかしいんじゃないのか。だって、物だけ物。

物に話しかけるとか、マジで笑える。つーかさ、その話しかける内容も、めっちゃおもしろーんだぜ。

「私を一人にしないで」とか、「どうして死んじゃったの?」とかさ、いやいや、一人が嫌ならお前も死ねよ。

後追い自殺する勇気もなく、恋人のことを忘れる勇気もないからって、無駄に墓参りなんかに来やがって。

ぶっ、まあ、「どうして死んじゃったの?」って質問には、俺でも答えられるけどな。

だってさ、そいつ殺したの、俺だもん。ぶっ、はははははは。やつべー、超楽しーよ。くっ、マジ、笑いを堪えるの、きつつ。

いやー、それにしても、墓っていいよな。指名手配されてても、安心して暮らせるし。警察だって、わざわざ墓の中身まで探さねーもん。

それにさ、あのバカ女のおかげで、飯にもタバコにも困らねー。ま、まさか自分の供え物が、恋人を殺した犯人の晩飯になってるとは思わねーだろうな。はは、あはははは。

「……………それじゃあ、また明日」

バカ女が帰って行く。よし、お食事タイムだ。

今日は、すげえ豪華だな。まさか、毎日供え物が無くなってるのを見て、死んだあいつが食べてるとか、そんなことを思ってるのか？ つくづくバカな女だな。では、いったただつきまーす。って、あれ？ か、体が動かかねーぞ。痛い痛いっ！なんだ、腕が、足が痛い！  
おいおい、どうして死んだあいつがいるんだ？  
離せ、離せよっ！

ギー、ギー、近くで音がする。体が動かねーから顔だけ後ろを向くと、墓が、倒れてきた。

痛い、痛い。ヤバイ、どうにか上半身は無事だったが、両足が墓の下敷きだ。

「……よくも、許さん」

あいつが、俺の腕を掴む。グキリ、いとも簡単に、俺の腕は折れた。

さらに、折れた腕を擦られる。ギギ、ギギ、グチャッ。

「うわあああ！腕が、もげた！おいつ、腕返せよっ！」

次は、反対の腕だ。グキリ、きちんと手順を踏む。

「やめろおお！やめてくれええ！」

あいつが、俺に許しを乞う。ギギ、ギギ、ブチッ。

ふう、これで両手とも、もげたな。

「やめてくれっ！謝るっ！謝るからっ！」

次は、首だ。だが、その前に。

「うっ、うわああ！目っ！」

目に、石、砂を擦込む。鼻、口、耳にも、満遍なく。  
そして、最後に首。

「やめてくれっ！死にたくない、死にたくない！！！」

ギギ、ギギ、ギギ、ギギ。中々もげない。ギギ、ギギ、ブチッ。

「……俺も、死にたくなかったよ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0926z/>

---

ホラー短編シリーズ(脳関連を除く)

2011年12月3日16時56分発行